

福島市内水ハザードマップ

1 内水ハザードマップとは?

○内水ハザードマップとは、想定される最大規模の降雨(1,000年に一度程度の大雨)により、下水道などの排水能力を超えた場合に、内水による浸水が想定される範囲(内水浸水想定区域)を地図化したものです。



※各種ハザードマップは、福島市ホームページでも確認いただけます。

※ふくしまeマップでは、内水だけでなく洪水や土砂災害ハザードマップも一緒に確認することができます。

・想定条件・
1時間で
120mmの降雨
(想定最大規模降雨)

福島市
内水ハザードマップ



ふくしまeマップ



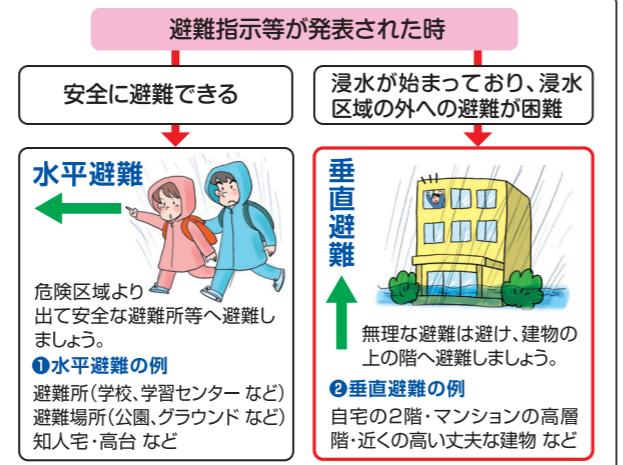
2 「内水による浸水」に適した避難方法を知ろう!

警戒レベル一覧

警戒レベル	避難情報等
5	緊急安全確保 ~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~
4	避難指示 災害のおそれ高い
3	高齢者等避難 災害のおそれあり
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁) 気象状況悪化
1	早期注意情報 (気象庁) 今後気象状況悪化の予測

避難のタイミングと行動

避難開始時の状況により
次のような方法があります。



※すでに浸水が始まっている場合や、足元が確認できない夜間の避難では、外に出ることで身の危険が高まることがあるため、避難場所に移動する「水平避難」だけでなく、自宅等の2階以上に移動する「垂直避難」も有効な場合が多いです。雨の降り方や時間帯、浸水状況から、その場にあった避難方法を取りましょう。

3 防災・気象情報を集めよう!

インターネット情報

福島市公式ホームページ「福島市防災ウェブサイト」
<http://bousai.city-fukushima.jp/>

国土交通省
「川の水位情報」



福島市簡易型河川監視カメラ
河川に設置されている水位計の情報やライブカメラの映像をご覧いただけます。

福島市の
登録制メール

メールで避難情報や開設している避難所などをお知らせします。

市の防災ウェブサイトから事前に登録してください。

迷惑メール対策を取られている場合は、diss-mlmg@bousai.city-fukushima.jpのアドレスを指定して受信可能な状態にしてください。



防災ウェブサイト
QRコード



防災と災害情報
メールマガジン
登録はこちらから

テレビによる
情報収集

Dボタンを押して、気象警報や開設している避難所などを確認することができます。

臨時災害
ラジオ放送

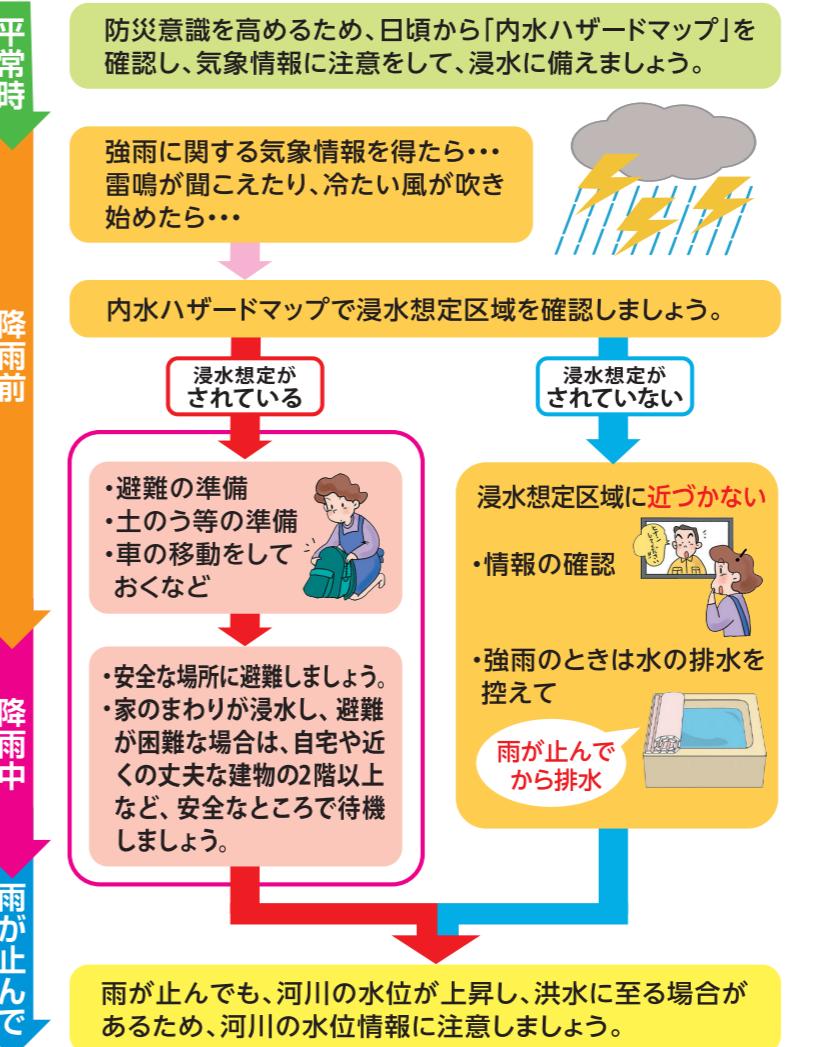
万が一災害が発生した場合、市では、FMポコ(76.2MHz)を「臨時災害ラジオ放送局」として、避難所やライフラインなど、災害に関する緊急情報ををお知らせします。



市で協定を締結したスマートフォンの防災アプリ「全国避難所ガイド」も併せてご活用ください。

4 日頃から浸水に備えよう!

内水ハザードマップの使い方



内水ハザードマップ凡例の解説

■ 浸水シミュレーション対象区域

浸水シミュレーションは下水道等の排水施設の情報と、地盤高などの地表面の情報を基にコンピュータで解析を行ったものです。雨水を排水するための下水管等排水施設の大きさや排水量が明らかな区域について、内水浸水シミュレーションを行いました。

■ 避難所とは

洪水、土砂災害時に開設しない避難所

学校、公共施設など一定の期間避難生活を送るために避難する施設です。避難所のうち、高齢者や障がい者等で通常の避難生活が困難な方を対象とした福祉避難所もあります。

※指定避難所は、災害状況に応じて段階的に開設いたしますので、テレビ(データ放送)、ラジオ、福島市ホームページなどから、避難所開設状況を確認の上、避難してください。

■ 避難場所とは

洪水、土砂災害時に開設しない避難所

身の安全を確保するため、緊急的に避難するための場所です。

■ 緊急連絡先

福島市役所 (災害時の対策本部) 535-1111 福島市消防本部 534-0119
(市外局番024)

大雨時の危険箇所

● アンダーパス

アンダーパスとは、鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。局所的で短時間の強雨により、アンダーパス浸水による車両の水没も多発しています。



● 地下空間

市街地には、地下通路、地下駐車場などがあります。地下は水が流れ込みやすく浸水の危険が高い場所です。大雨や洪水時は注意が必要です。



● 河川周辺

大雨のときなど、川や用水路の様子が気になってしまって見に行かないでください。様子を見に行って被災することがよくあります。河川の様子は自治体などがインターネットでライブカメラや、河川の水位をリアルタイムで公開しているところもあります。様子を見に行かずにこれらの媒体より情報を把握するようにしましょう。

聞き取り調査による浸水区域

(過去10年程度の台風等の大雨により浸水した箇所)

過去10年間で20cm以上浸水した箇所(外水は除く)を聞き取り、浸水区域として表記しています。

▲ 大雨時浸水危険箇所(アンダーパスや地下歩道)

ガード下やアンダーパス・地下歩道など、水が溜まりやすい箇所を表示しています。車両が浸水する恐れがあるほか、地下歩道などに水が流れ込むと階段を上がれなくなることがあります。強雨の際は迂回して危険を回避しましょう。

■ 土砂災害警戒区域とは

大雨や長雨などにより土砂災害の危険性は高まります。避難経路上に土砂災害警戒区域があるか事前に確認しておきましょう。